

# 今年もよろしくお祈いします

2021 年が明けて、半月のお休み頂き、今年初めての「馬城かわら版」である。1 月 14 日（木）地方紙福島民報に、第一線で活躍されている馬城会員の記事があったので転載します。

草野清貴氏は、昭和 40 年卒業、中村出身、荒中氏は、昭和 48 年卒業、やはり中村出身です。

## 商工会議所会頭に聞く 新春の抱負

相馬商工会議所の草野清貴会頭は、新たな観光資源と高速交通網を生かして観光、物流の広域連携を図り、地域経済の活性化につなげる考えを示した。

― 新年の抱負を。 ―  
 「三月までに東北中や『浜の駅松川浦』を  
 中央自動車道『相馬福島』を活用しながら相馬に観  
 道路』が全線開通する。光客を呼び込みたい。  
 縦横の高速交通網に加 沿線の商工会議所と広  
 え、昨年市内にオーブ 域連携し、相馬の海を

生かした観光・物流ル スの影響が長期化して  
 ー トを形成する」 いる。  
 ― 新型コロナウイルス ― 「震災と原発事故、

## 観光や物流 広域連携

コロナ禍は大きな足かせだ。飲食、宿泊業を中心に全業種に影響が及び、会員事業所へのアンケート調査では全体の75%が業績悪化に苦しんでいる。昨年は市補助金を活用して会員事業所への見舞金や支援金事業を実施したが、コロナの影響が

さらは一昨年十月の台風被害からの復興に取り組む相馬にとってコ

長引くのであれば、行政や関係団体と手を携えてさらなる対応を模索しなければならぬ

― 震災と原発事故から三月で丸十年。会議所の今後の役割とは。 ―  
 「持続可能な地域経済の実現に向け、中心市街地再生や観光振興、中小・小規模事業者の事業承継や創業、経営革新への支援など課題は多岐にわたる。コロナ禍で厳しい状況は続くが、積極的な事業展開に努めたい」



相馬 草野 清貴氏

広域連携による観光振興を旨と語る草野会頭

## 日弁連会長荒氏 地元相馬で講演 コロナ禍対応語る

講演する日弁連の荒会長



日弁連会長の荒中  
(あら・ただし)氏(六六)  
仙台弁護士会、相馬  
市出身は十三日、相  
馬市民会館で講演し、  
コロナ禍の中での日弁  
連の取り組みや地方自  
治体との連携について  
語った。

相馬、南相馬、新地、  
飯館の四市町村で構成  
する相馬地方市町村会  
が議員や自治体職員

合同研修として企画  
し、感染症対策を取り  
ながら一般市民にも公  
開した。約百六十人が  
聴講した。

荒氏は、新型コロナ  
に伴う労働、消費者問  
題や偏見・差別への相  
談が多く寄せられてい  
る現状を説明。一方で、  
東日本大震災と東京電  
力福島第一原発事故後  
の日弁連の災害支援活

動も振り返り「震災や  
コロナ禍は、地方自治  
の足元を見直す必要性  
を突きつけている。我  
々も自治体と協力しな  
がら、悩みを抱える人  
や事業者の助けになり  
たい」と語った。

荒氏は相馬高、東北  
大法学部卒で一九八二  
(昭和五十七)年に弁  
護士登録し、仙台弁  
護士会長、日弁連副会  
長や事務総長を歴任。二  
〇二〇(令和二)年四  
月、本県出身者および  
東北地方の弁護士会所  
属の弁護士としては初  
となる日弁連会長に就  
任した。